

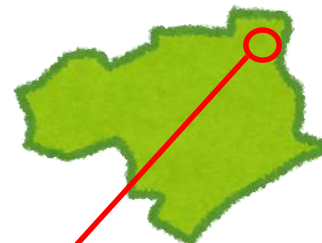
## 取組の概要

取組の概要 : 施設野菜産地の形成の推進  
計画策定主体 : 鳴門市農業再生協議会  
対象品目 : 施設野菜(いちご等)(産地面:5.3ha)  
主な取組主体 : 3法人及び4農業者の組織する団体  
成果目標 : 販売額の10%以上の増加(総販売額)  
助成金の活用 : 整備事業(高度環境制御栽培施設)  
状況 : 生産支援事業(パイプハウス資材・炭酸ガス発生装置等)

## ポイント

○高度環境制御栽培施設やパイプハウス等を整備することにより、高収益作物・栽培体系を導入し、高品質かつ安定生産する体制を整備することで、施設野菜産地の形成を図り、収益の向上を実現する。

## 地区の概要



徳島県鳴門市  
鳴門市(施設野菜)地区

## 産地の現状と目標

〈現状 : H26年度〉

作付面積 : 3.9ha

販売額 : 112,089,907円

〈目標 : H31年度〉

作付面積 : 5.3ha

販売額 : 179,012,400円



## 推進体制

地域の関係者(鳴門藍住農業支援センター、鳴門市、徳島北農業協同組合、農業関係者等)が一体となって事業推進。

## 地域における独自の取組

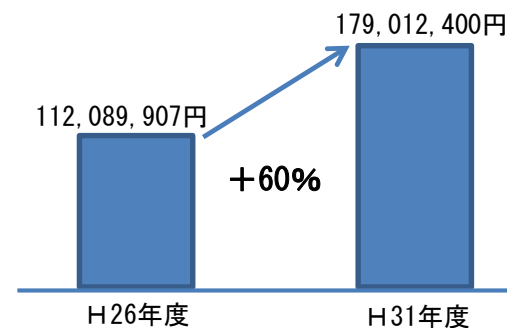
〈主な取組〉

○産直市等での直接販売による有利販売。

## 事業効果

○施設野菜の生産力を強化することで、産直市等への周年供給体制の整備や新規就農モデルとして新たな産地化を図り、販売額の向上を実現する。

### ～施設野菜の販売額～



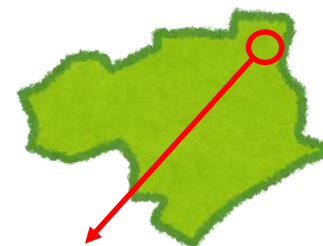
## 取組の概要

取組の概要 : かんしょ・だいこん産地の競争力強化  
 計画策定主体 : 鳴門市農業再生協議会  
 対象品目 : かんしょ・だいこん(産地面積:201ha)  
 主な取組主体 : 里浦農業協同組合  
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加(総販売額)  
 助成金の活用 : 整備事業(集出荷貯蔵施設)  
 状況

## ポイント

○集出荷体制を確立することで、計画生産が可能となり、上位規格品率の向上や栽培面積の拡大により、競争力の強化を図り、収益力の向上につなげる。

## 地区の概要



徳島県鳴門市  
里浦地区

## 産地の現状と目標

〈現状：H26年度〉

作付面積：かんしょ	151ha
だいこん	44ha
合計	195ha
販売額：かんしょ	944,742,721円
だいこん	268,466,580円
合計	1,213,209,301円

〈目標：H30年度〉

作付面積：かんしょ	151ha
だいこん	50ha
合計	201ha
販売額：かんしょ	1,007,747,815円
だいこん	326,998,883円
合計	1,334,746,698円



## 推進体制

地域の関係者(鳴門藍住農業支援センター、鳴門市、里浦農業協同組合、農業関係者等)が一体となって事業推進。

## 地域における独自の取組

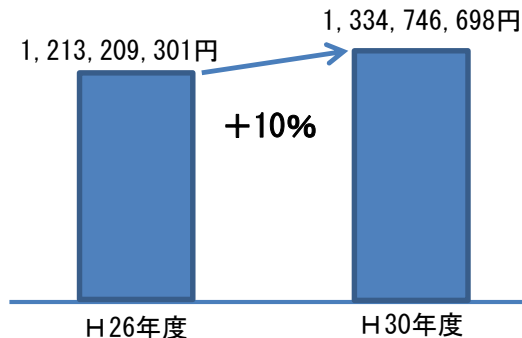
〈主な取組〉

○かんしょ・だいこんのブランド化「里むすめブランド」による有利販売。

## 事業効果

○集出荷場を機能増強することで、品質向上や生産拡大が図られ、産地の競争力の強化を図り、販売額の向上を実現する。

～かんしょ・だいこんの販売額～



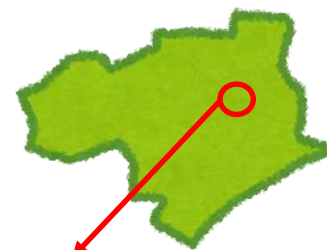
## 取組の概要

取組の概要 : 果樹産地の競争力強化  
 計画策定主体 : 佐那河内村農業再生協議会・徳島市農業再生協議会  
 対象品目 : 果樹 (みかん・すだち・キウイフルーツ)  
 主な取組主体 : 徳島市農業協同組合  
 成果目標 : 集出荷コストの10%以上の削減  
 助成金の活用 : 整備事業(集出荷貯蔵施設等再編利用)状況

## ポイント

- 既存の3施設を集約再編することで、施設の利用率の向上や集出荷コストの低減を図るとともに、共同選果による出荷作業の分業化により農業者の労力負担を軽減することで産地の収益の向上につなげる。
- 出荷物の一元管理により、品質の統一や周年供給による安定出荷など販売力の強化が図られる。

## 地区の概要



徳島県  
佐那河内村・徳島市地区

## 産地の現状と目標

〈現状：平成27年度〉

作付面積	みかん	28.8ha
	すだち	37.4ha
	キウイフルーツ	6.6ha
	計	72.8ha

集出荷コスト：66,134千円

〈目標：平成30年度〉

作付面積	みかん	26.7ha
	すだち	41.9ha
	キウイフルーツ	7.1ha
	計	75.8ha

集出荷コスト：49,262千円



## 推進体制

地域の関係者(佐那河内村、徳島市、徳島市農業協同組合、徳島農業支援センター、農業関係者等)が一体となって事業推進。

## 地域における独自の取組

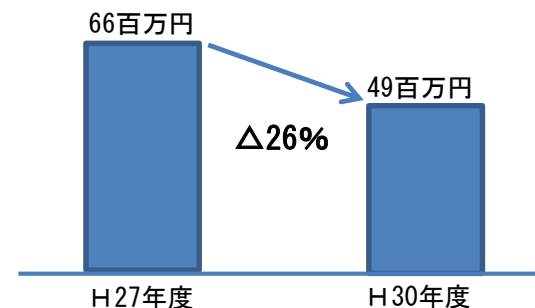
〈主な取組〉

- 業務需要に対応した包装資材の簡素化により新規需要開拓を推進。
- 各種イベントでの消費宣伝、果樹オーナー制度等、消費者へのPRによる認知度を向上。
- JA営農センターを設置し、営農指導を強化し栽培技術や品質を向上。

## 事業効果

- 集出荷場を集約再編することで、品質向上やコスト低減、分業化による省力化が可能となり、競争力のある集出荷体制が整備され、産地の維持や収益の向上が期待される。

～集出荷施設の集出荷コスト～



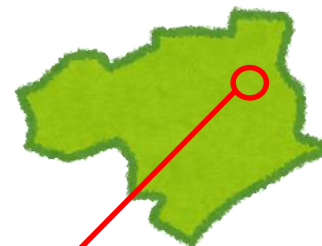
## 取組の概要

取組の概要 : 枝豆産地の競争力強化  
 計画策定主体 : 徳島市農業再生協議会  
 対象品目 : 野菜 (えだまめ)  
 主な取組主体 : 徳島市農業協同組合  
 成果目標 : 販売額 (総販売額) の10%以上の増加  
 助成金の活用 : 整備事業 (集出荷貯蔵施設)  
 状況

## ポイント

- 共同選別による調製作業の分業化により農業者の労力負担を軽減することで、栽培管理を徹底し品質や収量の向上、栽培規模の拡大など産地の収益の向上につなげる。
- ベルト式色彩選別機の導入により、品質の統一が図られ、販売力の強化につなげる。

## 地区の概要



徳島県徳島市  
徳島市(野菜)地区

## 産地の現状と目標

〈現状 : H27年度〉

作付面積 : 85.5ha  
販売額 : 246,964千円

〈目標 : H30年度〉

作付面積 : 89.8ha  
販売額 : 311,103千円



## 推進体制

地域の関係者 (徳島市、徳島市農業協同組合、徳島農業支援センター、農業関係者等) が一体となって事業推進。

## 地域における独自の取組

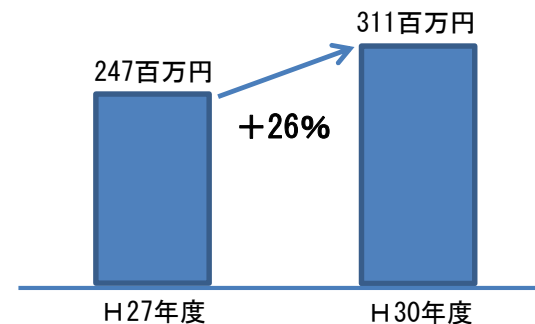
〈主な取組〉

- えだまめ栽培の省力化を図るため、収穫機等の現地試験や検討会を実施。
- 各種イベントでの消費宣伝等、消費者へのPRにより認知度を向上。
- JA営農センターを設置し、営農指導を強化し栽培技術や品質を向上。

## 事業効果

- ベルト式色彩選別機を備えた集出荷場を新設し、共同選別を実施することで、分業化による省力化、品質向上や生産拡大が可能となり、競争力のある集出荷体制が整備され、産地の維持や収益の向上が期待される。

～えだまめの販売額～



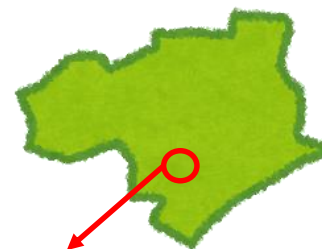
## 取組の概要

取組の概要 : 果樹産地の競争力強化  
 計画策定主体 : 那賀町地域農業再生協議会  
 対象品目 : 果樹 (ゆず・すだち・ゆこう)  
 主な取組主体 : 阿南農業協同組合  
 成果目標 : 販売額(総販売額)の10%以上の増加  
 助成金の活用 : 基金事業 (うち整備事業)  
 状況 (農産物処理加工施設)

## ポイント

- 県版HACCPに対応した施設として機能増強を行うことで、実需者のニーズに対応した供給体制を確立する。
- 搾汁効率を高め急速冷凍することで品質向上を図り、有利販売に努めることで加工処理量の増加を図り、栽培面積や生産量を拡大する。

## 地区の概要



徳島県 那賀町

## 産地の現状と目標

〈現状：平成27年度〉

作付面積：ゆず 150.0ha  
 すだち 12.4ha  
 ゆこう 1.9ha  
 計 164.3ha  
 販売額：119,083千円

〈目標：平成30年度〉

作付面積：ゆず 156.0ha  
 すだち 12.4ha  
 ゆこう 1.9ha  
 計 170.3ha  
 販売額：132,351千円



## 推進体制

地域の関係者(那賀町、阿南農業協同組合、阿南農業支援センター、農業関係者等)が一体となって事業推進。

## 地域における独自の取組

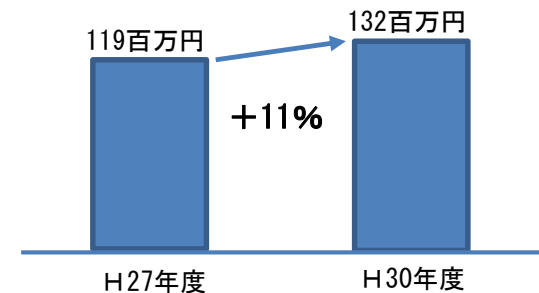
〈主な取組〉

- 新植や改植により園地の若返りを図ることで生産性・品質を向上。
- 省力化等の技術の普及、労働力の補完体制の整備等による経営の安定化。
- 労働補完組織の育成等、サポート体制の整備。

## 事業効果

○加工処理施設の機能強化を図ることで、生産効率や品質の向上により実需者ニーズへの対応が可能となり、競争力のある販売体制が整備され、産地の生産拡大や収益の向上が期待される。

### ～加工品の販売額～



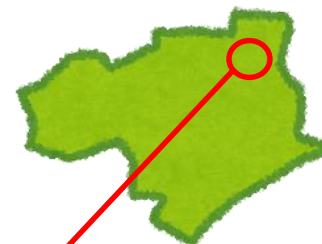
## 取組の概要

取組の概要 : だいこん産地の競争力強化  
 計画策定主体 : 松茂町地域農業再生協議会、鳴門市農業再生協議会  
 対象品目 : 露地野菜(だいこん)  
 主な取組主体 : 大津松茂農業協同組合  
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加(総販売額)  
 助成金の活用 : 整備事業(集出荷貯蔵施設)  
 状況

## ポイント

- 共同選別施設の処理能力を高めることで、農業者の出荷調整作業を省力化し、作付面積拡大を図ることで産地の収益の向上につなげる。
- 計画生産に取り組むことで、適期収穫を可能とし高単価の望める上位規格品の出荷を増やすことで、販売力の強化につなげる。

## 地区の概要



徳島県  
大津・松茂地区

## 産地の現状と目標

〈現状 : H27年度〉

作付面積 : 87.1ha  
 販売額 : 456,635千円

〈目標 : H31年度〉

作付面積 : 98.2ha  
 販売額 : 534,063千円



## 推進体制

地域の関係者(松茂町、鳴門市、大津松茂農業協同組合、鳴門藍住農業支援センター、農業関係者等)が一体となって事業推進。

## 地域における独自の取組

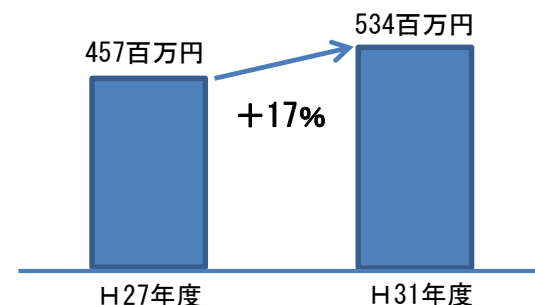
〈主な取組〉

- 収穫作業の受託組織を整備することで、生産者の労力負担を軽減し作付面積の拡大を推進。

## 事業効果

- カメラ式選別機の導入による品質の統一、選別作業の効率化によるコスト低減、出荷調整作業の省力化による生産拡大が可能となり、競争力のある集出荷体制が整備され、産地の維持や収益の向上が期待される。

～だいこんの販売額～



# 産地パワーアップ事業の取組事例（29～30年度：計画作成主体：海陽町地域農業再生協議会）(徳島県)

## 取組の概要

取組の概要 : きゅうり産地の拡大  
 計画作成主体 : 海陽町地域農業再生協議会  
 対象品目 : きゅうり (産地面積5.54ha)  
 主な取組主体 : かいふ農業協同組合  
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加 (総販売額)  
 助成金の活用 : 整備事業 (生産技術高度化施設) 状況

## ポイント

海陽町のきゅうりの担い手確保や規模拡大を加速化するとともに、低コスト耐候性ハウスの導入による栽培期間の拡大により、販売額10%以上の増加を実現。

## 地区の概要



## 産地の現状と目標

〈現状:H28年度〉

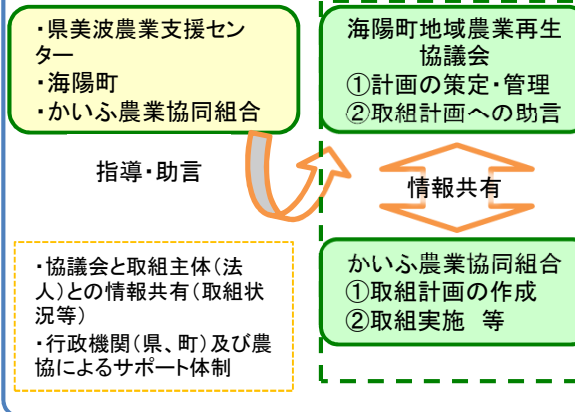
作付面積 5.16ha  
 販売額 313,543千円  
 出荷量 1,153t  
 販売単価 271.9円/kg

〈目標:R2年度〉

作付面積 5.54ha  
 販売額 415,918千円  
 出荷量 1,328t  
 販売単価 313.2円/kg



## 推進体制



## 地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 「きゅうり塾」における新規就農者研修
- 栽培マニュアル作成

## 事業効果

### 【事業実施による直接効果】

低コスト耐候性ハウスの導入や新規就農者の確保、栽培技術の習得を行うことで作付面積が増大し産地の拡大が図られる。  
 また、養液栽培施設を導入することで、栽培管理作業の省力化、多収栽培による生産拡大が図られる。

### 【事業実施による間接効果】

移住就農者の受け入れにより、担い手の減少に歯止めがかかる。

～きゅうりの総販売額～ (33%増加)

